



George Cockle's

Music Beyond Borders

音楽にボーダーはない。国、島、街……しかし、さまざまな場所で生まれ、流れる音楽には、バックグラウンドがあり、その場所を匂いを感じさせる。ここではそんな音楽が生まれた場所を感じさせるアルバムを紹介していこう。

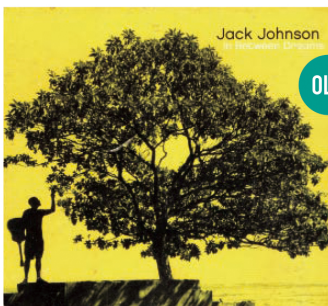


そして今年には彼が4年ぶりにアルバム『ALL THE LIGHT ABOVE IT TOO』をリリースした。彼が環境問題を意識していることは、アルバムジャケットを見ればわかる。海の漂流物を砂浜に並べ、その真ん中に横たわっているものだ。ブルーで統一され、一見さわやかな印象だが、よく見れば海を汚す漂流物に覆われ、この時代の問題を人々に投げかけている。彼はソーラーパワーでCDをつくったりもしているほどだ。ハワイに住み、自然と寄り添うように暮らすジャックの、身近で切実な思いが形になっている。そしてサウンドといえば、ジャックの

得意なジャンルをさらに広げている。まるで海岸に面している小屋の庭でランコを乗りながら、夕日に向かって歌っている感じだ。彼のアルバムはいつもシンプルだが、今回は特にシンプルだ。彼の声はいつも通り爽やかで、デモテープかと思うほど。まるで目の前で弾いているようだ。ハワイを訪れる理由、ハワイ好きな人達の共通項が、そこに流れている気がする。アルバム名は、太陽の下だけでなく、太陽の上に広がる光を表現している。その光は、あらゆる人達のために輝いている、彼は今はハワイのノースショアからそんなメッセージを伝えている。



NEW



OLD

JACK JOHNSON

ハワイから届く彼のサウンドはいつも変わらず、僕達の耳に心地いい

ハ
ワイは世界中の人々にとって、楽園のひとつだろう。僕にとっても同じだ。今回はそんなハワイ生まれのアーティストをとりあげよう。今でもノースショアに住む、ジャック・ジョンソンだ。アコースティックギターのメロリーなサウンドが心地よく、日本にもファンが多い。それはきくと聴くだけで心地よく、まるでハワイの風を感じているかのような気持ちになるからだろう。

実は僕は2000年代に入ってから、一時期、音楽を聞かなくなりました。60〜70年代の音楽が好きで、今となっては、味気ない時代だった。様々なアーティストが作品を発表していたが、あまりピンとこなかった。しかし2005年、ジャック・ジョンソンがリリースした『BETWEEN DREAMS』を聞いた瞬間、僕のなかに新しい風が吹いた。絶妙でいて無理のない組み立てのメロディ、

それに乗る彼の爽やかな声には、ポジティブなメッセージが込められていた。そして彼の歌声が届くところには、まるでハワイのそよ風が吹いているようになる。僕がもう一度新しい音楽を聴くようになったのは、このアルバムがきっかけだったと言ってもいい。彼自身も、このアルバムでスターの仲間入りをした記念すべきものだったと思う。

実は僕がジャック・ジョンソンの存在を知ったのは、1999年頃、ハワイのノース・ショアでサーフィンの映画を撮影しているときだった。僕は有名なサーフスポット、パイプラインの隣の海岸、プブケアという場所に家を借りていた。そのオーナーが近所のローカルサーファーが音楽やっているんだと、ジャックのCDを聞かせてくれた。まだデビュー前だったと思う。でもその時はそれっきりになってしまったんだ。今思えば、契約しておけば良かったね(笑)。



George Cockle ◎ジョージ・カックル。
ラジオパーソナリティ。ディープな音楽話とダジャレが止まらないInterFMの番組「レイジーサンデー」(日曜11:00~15:00)が今年11年目に突入。録音中在住で、著書は「ジョージ・カックルの録音ガイド」「100のジョージ・カックル」など。